

「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日： 2011年 10月 14日

所属：医学部 医学科 1年

氏名：石黒 哲史

派遣先大学名（国）ビクトリア大学（カナダ）

在籍身分：

派遣期間：22日間

渡航年月日：9月3日

帰国年月日：9月25日

○派遣先大学における授業等の履修状況

履修した講義名：マンスリープログラム

講義の履修期間：9月5日～9月23日

週当たりの講義時間：月～木 午前2時間40分 午後2時間 週の合計18時間40分

○研究・学習概要及び今後の勉強計画

講義は午前と午後に分かれており、午前はグラマー、午後はディスカッションだった。午前のグラマーは、現在完了形や、関係代名詞などの文法の使い方を先生が解説し、それを用いてクラスメートと話すという形式であった。午後は、時事問題に関するディスカッションや映画のスピーチなどを行った。全体の感想としては、クラスが少数で先生に直接指導していただく機会が多くとてもよかった。

今回の研修の目的は、自分の英語力がどれほどか確かめるためであったが、研修を終えて、自分の伝えることができる範囲や限界がよくわかった。文法を意識すると、会話のスピードが落ち、逆に、なにか伝えたいことがあって急いで話すと文法が無茶苦茶になるというジレンマを感じた。

フォーマルか、カジュアルか、または格調高いか、そうでないかなど、言葉や文が持つニュアンスを学んだり練習したりすることができることは、留学の大きな利点だと痛感した。

○生活面について

異国の地でのバスを使った移動は自分にとってかなり大変で、何回か失敗してしまった。バスのフリーパスカードを初日に、間違って現金のお札を入れるところに入れてしまった。また、木を目印にしていたら、思ったより似ている木がたくさんあって降りるバス停を間違えるということもあった。生活で困ったことは少なからずあったが、その都度ホストフ

ファミリーの助けを借りてなんとかして乗り越えてきたと思う。とても良い思い出である。

ホストファミリーは大変親切で、とても快適に過ごせた。また、様々な場所に連れて行ってもらい、平日だけでなく、休日も充実していた。食事に関しては、カナダに行く前は、量が多いのではないかと、味が合わないのではないかと、など不安があったが、とてもおいしく量もちょうどよかった。ハンバーガーやピザなど、食べやすくシンプルな食事が多かった。

放課後は、ブラジルや韓国、サウジアラビアから来たクラスメートと夕食を食べに行った。野球や卓球、サッカーなどスポーツをしたこともあった。

○その他留学全般にわたる感想

印象に残ったことは、自分と他国籍の生徒とのスピーキングやリスニング力の差がかなりあったことである。授業は、大部分がディスカッションなどだったので、ついていくのが大変であった。会話は、とくに難しい文法や単語を使うわけではないが、スピードが速かった。語学留学の前準備をするならば、スピーキングやリスニングに特化して勉強するべきだったと思った。

クラスメートは年齢や勉強の専門がまちまちで、中にはビジネスマンもいた。様々な人と接することができ、大変貴重な経験になった。皆さん高い意欲があったので刺激になってよかった。

